

保護者の皆様

光風台小学校校長 松田 寿春

学校教育自己診断の結果報告について

1. はじめに

残寒の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、昨年 12 月に実施いたしました「平成 28 年度学校教育自己診断（保護者用）」の集計結果と本校としての分析結果をお知らせいたします。なお、自由記述欄にご意見をいただいた方については、校長より必要に応じて個別に連絡をさせていただき、面談等を実施させていただきました。皆様のアンケート協力に感謝申し上げます。

同時に行った児童用・教職員用のアンケート結果について公表はいたしません。その結果を分析し来年度の学校教育並びに学校運営に生かしていきたいと思っております。

なお本アンケートの結果につきましては、学校協議会に報告して委員各位のご意見ご提言をいただいております。

2. 光風台小学校「学校教育自己診断」結果について

(1) 保護者アンケート回収状況

配布 219 件（児童数） 回収 199 件 回収率 90.9%

(2) 集計の見方 「A・B・C・D」の4段階での回答。

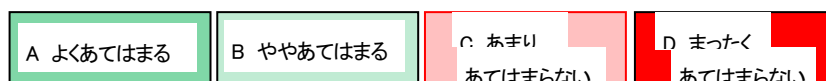
- ・「肯定的回答」A：よくあてはまる、B：ややあてはまる
- ・「そうでない」C：あまりあてはまらない、D：まったくあてはまらない

アンケート結果のA～Dの数値は無回答を除いての割合（%）です。

3. 結果報告

(1) 教育活動に関すること

①子どもに関すること



項目	質問	H26	H27	H28		
1	子どもは、学校生活が楽しいと言っている。	H26: A:40, B:49, C:9, D:2	H27: A:46, B:46, C:7, D:1	H28: A:45, B:49, C:4, D:2		
		2	子どもは授業が分かりやすいと言っている。	H26: A:23, B:64, C:10, D:3	H27: A:24, B:63, C:11, D:2	H28: A:29, B:58, C:12, D:1
				3	子どもは学校の英語活動に興味を持っている。	H26: A:45, B:34, C:15, D:6

4	子どもは落ち着いて人の話をしっかり聞くことができる。	H26	22	52	21	5
		H27	25	54	19	2
		H28	19	57	21	3

肯定的な割合（A+B）は、No.1（学校生活が楽しい）は、本年度94%で平成26年度89%・27年度92%と増加傾向、No.2（授業が分かりやすい）は本年度87%で平成26～28年度同程度である。どちらも肯定的評価が90%前後の高い評価である。

No.3（英語活動に興味をもっている）は、本年度87%で平成26年度79%・27年度87%と増加傾向、英語活動への興味が高まっているといえる。

No.4（落ち着いて話をしっかり聞くことができる）は本年度76%で平成26～28年度ほぼ同程度であり、肯定的評価が比較的高い方ではあるが、20%強は否定的評価であり本校の課題の一つといえる。

授業内容の工夫・改善（サポートボランティアによる特別授業などの教育支援を含む）、学校行事（運動会・作品展等）、泊を伴う行事（海洋学習・修学旅行）、児童会活動、学級活動の充実などにとりくんできた。今後なお一層、教職員の授業力の向上に努め、学力向上の推進を第一義として捉え、学校全体で組織的・継続的に進めていく。学力は、知・徳・体（頭づくり、仲間づくり、体づくり）の調和のとれた学力観に立った教育の推進である。机上の学習だけに留まらず、体験的な学習等を通して、児童自らが主体的かつ楽しく学ぶ授業づくりにとりくむ。学校が楽しいと思える基礎は「楽しくわかる授業」であることを肝に銘じて、教職員は授業づくりに真摯に向き合っていきたい。

またNo.4の項にもあるように、「話を聞く」等の学習規律の定着や、「授業の用意を忘れない」等の生活習慣の指導も本校の課題として、保護者の協力を得ながら取り組んでいく必要がある。

保護者・地域の方には、運動会や人権集会、学校公開など普段の学習の様子について参観していただく機会を設定すること、参観以外でも保護者の方に授業見学やサポートに来ていただきいつでも学校をオープンにしていきたいと考える。今後も様々な機会を捉えて、保護者の方々の協力をいただき、落ち着いて授業が受けられ、ますます楽しい学校になるように取り組みを進めていきたい。

②教職員に関すること

5	先生は、子どものことについて相談ののってくれる。	H26	37	51	9	3
		H27	36	49	13	2
		H28	38	49	10	3
6	先生は、子どもを理解してくれている。	H26	31	55	11	3
		H27	34	49	14	3
		H28	34	49	14	3

子どもにとって教職員は重要な教育環境の一つである。この診断項目は毎回注目しているが、各項目の肯定的評価（A+B）の割合は上記のようになった。

No.5（先生は相談ののってくれる）は、本年度87%で平成26～28年度ほぼ同程度、No.6（先生は、子どもを理解してくれている）は、本年度83%で平成26年度からは幾分低下しているが平成26～28年度ほぼ同程度が肯定的な評価だった。

児童の思いに耳を傾け、よく聞き、児童に寄り添うこと、児童の本音や願いを理解すること教職員の資質の向上に努めていきたい。全教職員が全児童に声をかけ、よいところを見て褒めて評価することなど、これまでも継続して行っている教育技術や評価のしかた、子どもの理解に対して力量を高める教職員研修も積み重ねていきたい。また、SSW（スクールソーシャルワーカー）や保幼小・小小・小中の連携など様々な組織的な取り組みを行い、多様な考えや見方を取り入れて児童の見立てと手立ての力量を高めていきたいと考える。

③保護者・地域との連携

10	地域の方々の協力を得て学校教育を進めていることに共感できる。	H26	34	58	8	0
		H27	40	56	4	0
		H28	39	52	8	1
11	学校は保護者・地域の声を教育に活かそうと努めている。	H26	19	63	18	0
		H27	25	67	8	0
		H28	18	60	19	3
13	学校は保護者が授業を参観する機会を適切に設けている。	H26	34	64		2
		H27	45	53		2
		H28	46	52		2

子どもの力を伸ばすには、学校・保護者・地域の教育力を活かすことが重要である。上記項目はそうした意味で重要な要素を含んでいる。

No.10（地域の協力を得て学校教育を進めていることに共感できる）は、本年度91%で平成26年度92%・27年度96%、No.11（学校は保護者・地域の声を教育に活かそうと努めている）は、本年度78%で平成26年度82%・27年度92%より低下、No.13（学校は保護者が授業を参観する機会を適切に設けている）は、本年度98%で平成26～28年度同程度が、肯定的な評価の割合であった。

地域の方そしてサポートボランティアの方々には、授業や登下校見守りなど様々な場面で、子どもたちへのよきアドバイザーとして支援をいただいている。現在は地域の方が約90名登録され、保護者の皆様のサポーターも増えている。こうしたことが評価につながったと考えられ、今後ますます保護者・地域の皆様には、学校での子どもたちの活動に積極的にご参加いただき、ともに教育活動を推進していければと考える。

開かれた学校づくりの取り組み（学校だよりの地域回覧・ホームページによる情報公開・学校公開日の設置など）が定着した評価であると考え。今後も10月の土曜人権参観日の午前を学校公開として継続していきたい。

しかし、No.11（学校は保護者・地域の声を教育に活かそうと努めている）の評価が低下したことについては真摯に受け止めなくてはならない。今後、いろいろな機会を通じて学校から積極的に情報を発信し、保護者・地域の皆様の声や思いと願いに傾聴し、いただいたご意見を学校運営に反映させていかななくてはならないと考える。

(2) 学校経営に関すること

①学校からの情報発信について

14	学校は地震や台風など緊急の場合の対応について、適切に対応している。	H26	42	53	5	0
		H27	41	57	2	0
		H28	56	42	1	1
15	学校の施設・設備は学習環境・生活環境面で満足できる。	H26	11	39	41	9
		H27	13	50	29	8
		H28	11	48	34	7
16	学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。	H26	27	66	6	1
		H27	27	66	7	0
		H28	28	64	6	2
17	学校は学校便り・学年通信・学級通信・メール・ホームページ等、学校の情報を積極的に伝えている。	H26	38	56	6	0
		H27	33	57	9	1
		H28	35	55	9	1

学校教育の課題・取り組み・その成果や緊急時の情報をお知らせすることは、学校運営として大切にしなければならぬことと考えている。

No.14（緊急の場合の対応について適切に対応している）は、本年度98%で平成26～28年度ほぼ同程度、No.16（保護者に出す文書・事務連絡等は適切である）は、本年度92%で平成26～28年度ほぼ同程度、No.17（学校の情報を積極的に伝えている）は本年度90%で平成26～28年度ほぼ同程度、と概ね肯定的な評価であった。今後、学校からの情報の質が向上するよう取り組んでいく。

連絡については、天候の急変や不審者等による緊急情報を緊急光小メールで、連絡情報は光小連絡メールで、緊急メールの同じアドレスから2種類を使い分けしてお知らせしてきた。迅速に、かつ分かりやすく確実に伝えできるよう今後も努める。あわせて関係諸機関との連携や危機意識の向上・緊急対応体制、一斉下校の練習の積み重ね等、さらなる充実を図る。

No.15（施設・設備は満足できる）は、本年度59%で平成26年度50%・27年度63%、低い肯定的評価である。随時修復作業を施し、昨年度は体育館の耐震化工事に伴うトイレ改修を行ったが、施設は築40年を経過し、あちこちに老朽化と経年劣化が目立ち、それが低い評価につながったとも考えられる。施設改善には予算等が伴うことであり、関係機関に今後一層働きかけていきたい。

②教育内容に関すること

7	少人数授業・コース別授業・交換授業など指導のあり方に工夫している※4年生以上の保護者回答	H26	17	66	15	2
		H27	17	71	9	3
		H28	21	59	12	8
8	通知表は、子どもの学力や学校での様子を適切に評価できるように工夫されている。	H26	13	64	21	2
		H27	14	66	17	3
		H28	15	68	13	4

9	学校では教育活動を通して心の教育(人権教育)が尊重されている。	H26	
		H27	
		H28	
12	学校はいじめ防止体罰のない学校づくりの取組みを、子どもの思いを受け止めて推進している。	H26	
		H27	
		H28	

No.7 (指導の在り方に工夫している) は、本年度 80%で平成 26 年度 83%・27 年度 88%。今年度は、5・6 年生で、国語・算数を中心に、少人数授業や T T 授業、コース別、課題別授業を実施してきた。しかし、児童の授業に対する意欲の向上や、特色ある少人数授業づくりなどの面で十分でなかったと考える。高学年の授業や、児童数が多い学級での指導体制の工夫を、今後も行っていきたい。

No.8 (通知表は子どもの学力や学校での様子を適切に評価できるように工夫されている) は、本年度 83%で平成 26 年度 77%・27 年度 80%から上昇している。2 年前より、子どもたちの思考力・判断力・表現力を伸ばしていくために、「思考・判断・表現」の評価項目を全教科に入れた。学習指導要領に示されている子どもの学力や学校での様子を、個人懇談会でも説明し、通知表でも的確に保護者の方にお知らせし、家庭との連携を図ることに今後も努めたいと考える。

No.9 (教育活動を通して心の教育が尊重されている) は、本年度 79%で、平成 26 年度 85%・27 年度 88%と減少傾向。心の教育については、文部科学省の人権教育研究指定校として「集団づくり」の研究を進めてきた中での減少傾向を真摯に受け止めなければならない。授業・学級活動、日々の生活のなかで、「人とつながり、人の気持ちがわかる児童」「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める児童」の育成は、本校の教育課題であり、本校の教育重点目標である。今後も、人権教育を核にすえて教育活動を推進していかなければならないと考えている。

No.12 (学校はいじめ防止等の取組みを推進している) は、本年度 81%で平成 26 年度 83%・27 年度 89%。学校全体でいじめの未然防止の取組を進め、毎学期「いじめアンケート」を児童に実施し、いじめ等の実態把握に努め、個別指導・ケース会議を開くなど個々の子どもの問題に迅速に対応できるように努めてきたが、結果を真摯に受け止めたいと考える。

No.9 の心の教育 (人権教育) と No.12 のいじめ防止の取組みは、本校人権教育の要であり最重要課題の一つである。今後、より一層取り組んでいく必要があると考える。

(3) 家庭に関すること

18	家庭では、子どもに基本的な生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)がつくように努めている。	H26	
		H27	
		H28	
19	家庭では毎日あいさつを交わしている。	H26	
		H27	
		H28	

20	家庭では学校のことについて子どもと話す時間をもっている。	H26	43	54	3
		H27	50	47	3
		H28	52	44	4

No.18（子どもに基本的な生活習慣がつくように努めている）は、本年度95%で平成26年度92%・27年度94%。No.19（家族は毎日あいさつを交わしている）は、本年度98%で平成26年度～28年度同程度。No.20（学校のことについて子どもと話す時間をもっている）は、本年度96%で平成26・27年度97%。どれも高い割合を示している。家庭で、基本的な生活習慣がつくように努めておられること、毎日挨拶を交わすようにされていること、ご家庭での子どもとのかかわり方がしっかりできていることがよくわかる結果である。

ただ、朝の登校の様子などを見ていると、地域の方への挨拶をすることが今後の課題といえる。また、挨拶は「おはようございます」だけでなく、名前を呼ばれたら返事、「ありがとう」や「ごめんなさい」も挨拶であり、人と人がコミュニケーションを図る大切な一歩であることを児童に伝えていき、身につけさせたいと考える。

子どもは学校・家庭・地域が協力して見守り、育むために、これからも子どもとのふれあいを大切にして、あたたかく見守っていただくことをお願いしたい。

4 おわりに

今年度の結果は、概ね肯定的な割合が多く、学校としての取り組みが、地域・保護者の皆様方に一定認められつつあると感じます。本校教職員は全教職員が全児童の課題を共有し、全児童に声をかけ励まし、児童の思いを聞くように努めています。まだまだ十分とはいええないところもありますが、学級集団づくりをする中で、個別配慮や個別課題に取り組み、様々な教育課題に懸命に向き合っています。

水泳指導や理科の科学実験、児童安全見守りなどで多くの保護者の皆様方に学校支援をいただき、学校と家庭が一体となったりくみを進めている中で成果が見えてきています。

ただ、心の教育・人権教育の項目では、課題をいただきました。今後より一層、人権教育を核とした教育に努め、人権感覚のあふれる学校環境づくりや授業づくりに取り組みなくてはならないと考えています。また、授業規律や学校生活規範の定着が本校児童の課題でもあり、これに正対した取り組みをより一層進めていく必要を感じています。

子ども一人ひとりが授業の中で達成感をもち、楽しく学ぶ喜びを感じる授業づくりを進めていかななくてはならないと考えます。そのことなくして「楽しくてたまらない学校」はないと心に命じ、今後も取り組んでいきたいと思えます。

学校目標である『すべての児童にとって楽しくてたまらない学校』、本年度重点目標である『人とつながり、人の気持ちのわかる児童を育む』『自分の大切さとともに、他の人の大切さを認める児童を育む』については、教職員・児童・保護者・地域の方全員の目標であると考えます。この課題に向けて、保護者・地域の皆様方のご意見を真摯に受け止め、日々の教育活動を進めていく所存です。

診断項目へのアンケート、また、たくさんの貴重なご意見をいただいたことに感謝申し上げますと共に、今度もどうぞ忌憚ないご意見をお寄せくださいますようよろしくお願いいたします。